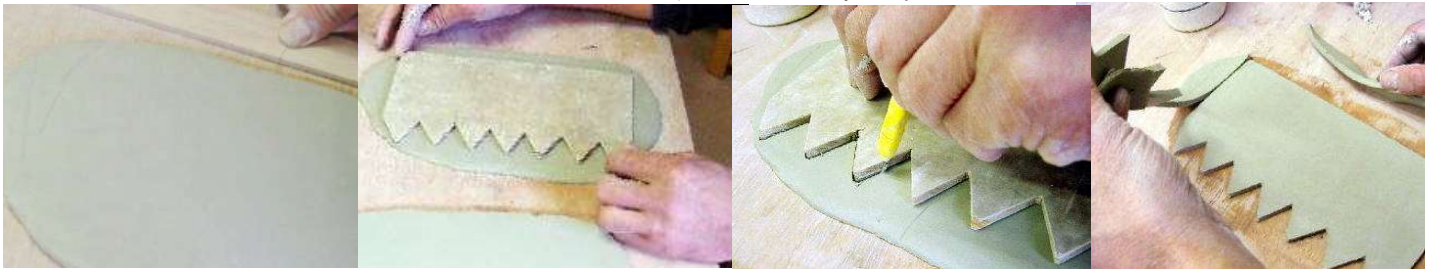


マグカップ 2個

【粘土】 水ヒ土
 【重さ】 1 kg
 【手法】 タタラ内型作り 6 mm
 【装飾】 呉須還元 上絵付



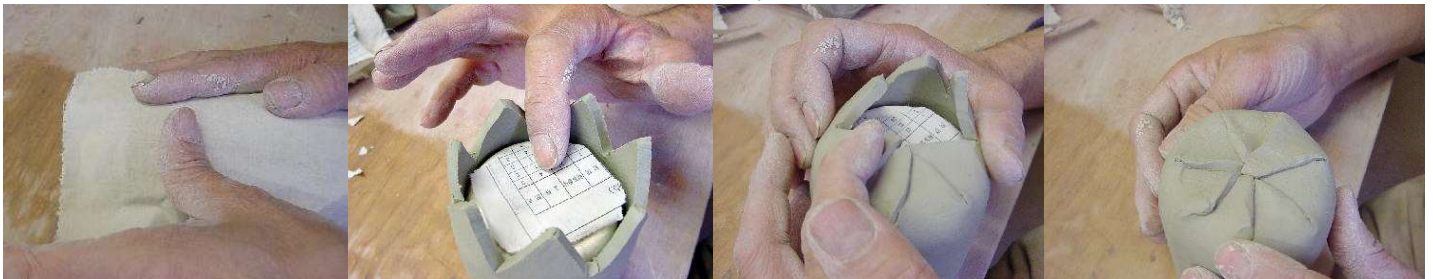
手で少し平たくする。布の上でたたく。(厚みが12mm 以下にならないように)。左右に12mm のタタラ板をセットし、上にも布を置く。ローラーでのす。



タタラ板6mm 分をはさみ、切金で切って2枚にする。粘土の上に型を置く。型に合わせて針で切る。余分な粘土を取る。



石膏の型に片栗粉をはたく。切った粘土を巻いていく。重なったところを針で切る。継ぎ目を合わせる。



布をあててよくなじませる。小さく切った新聞紙を石膏の型に置く。(型がはずれなくなるのを防ぐため) ギザギザを重ねていく。隙間がないようにとじる。



布を置き、板で軽くたたく。

指でよくなせてなじませる。

型をはずす。

縁を整える。



余りの粘土で取っ手を作る。

水をつけ、すり合わせて接着する。



針で適当な長さに切る。

ビニールに入れておく。本体は半乾燥させる。

半乾燥後、本体の継ぎ目が目立ったら修正する。筆で水をつけ、細かいひも状の粘土をあて、よくなじませて補強する。



ヘラでよくなじませる。

縁をスポンジでなめらかにする。

取っ手位置の確認。

接着する位置にクシでキズをつける。



ドベをぬる。

取っ手を接着する。内側からも手を添えて。

サインをして、乾燥後、素焼。

素焼後、下絵付用の呉須を用意。



鉛筆で下描きする。 呉須で絵付する。

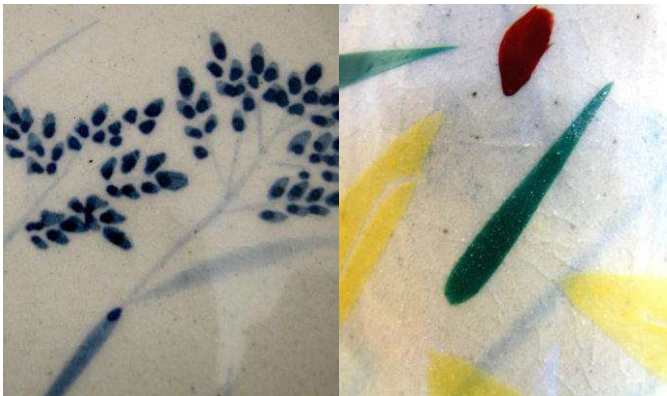
全体の釉掛けの前に筆で取っ手のつけ根部分に薄い透明釉をぬる。

全体に透明釉を掛ける。底をスポンジで拭き、本焼へ。



本焼後、上絵具で絵付する。上絵焼成。上絵焼成用の棚にメモをつけて置く。

ワンポイントアドバイス 下絵と上絵。



呉須下絵

上絵

焼き物の断面を考えると、素地の上に釉があります。素地と釉の間、釉の下の絵付けを下絵。釉の上の絵付けを上絵と言います。別に釉の中に染み込む絵付けを中絵とよぶこともあります。

一般に下絵は、本焼をするので、温度が高く色数が限られます。上絵は温度が約800℃なので、鮮やかな色ガラスが使える、銀もあります。